

会 員 通 信 ・ News and comments

原田輝雄先生のご逝去を悼む

Dr. Teruo Harada, 1926-1991

本学会評議員原田輝雄先生は、普段通り水産研究所内でお仕事で脳梗塞により突然倒れられ、平成3年6月27日夕刻、65歳で逝去された。

先生は長野県のご出身で、大正15年6月10日にお生まれになり、海軍兵学校(終戦で中退)、松本高等学校理科から京都大学農学部水産学科に進学された。昭和28年にご卒業、同年10月から近畿大学白浜臨海研究所(現在の水産研究所)に助手として着任された。当時近畿大学には農学部がなく、和歌山県湯浅町にあった農芸化学研究所を母体に農学科、白浜臨海研究所を母体に水産学科をつくり、農学部設立の計画が打ち出された。先生は昭和31年4月近畿大学評議員、同年9月農学部設置準備委員会幹事に任せられ、昭和33年4月農学部開設とともに水産研究所・農学部講師、昭和40年教授に昇進され、水産学科の中軸をなす水産増殖学を担当された。なお、この間、昭和51年水産研究所長に就任、昭和61年大学院開設に伴ない水産増殖学特論を担当、また平成3年には近畿大学理事に就任され、教育と研究、学園運営など多方面にわたりその重責を果たしてこられた。

先生は水産研究所着任早々から、天然資源に頼る漁業の将来を案じ、海産魚の養殖を企画された。比較試験の必要性から生簀網飼育を思い立たれ、これが現在世界的にも広く採用されている小割式網生簀養魚法の嚆矢となった。この養魚法の開発とともに、各種の沿岸性有用魚類の養成・産業化への道を開かれ、昭和40年には関係者の永年の夢であったクロマグロの養殖を手掛けられ、試行錯誤の末その養殖法を確立された。また、完全養殖を目ざして、ヒラメ(昭和40年)、ヘダイ(42年)、ブリ(43年)、カンパチ(48年)、シマアジ、マルソウダ(48年)、キハダ(51年)、そしてクロマグロ(54年)など多種類の産卵親魚を養成し、人工ふ化による種苗生産の研究に取り組んでこられた。さらに、選抜や人工交雑による育種の研究も早くから多数手掛けられ、選抜では天然よりはるかに成長の早いマダイの種苗生産に成功され、また交雑種ではマクロダイ(マダイ×クロダイ)、キンダイ(インダイ×インガキダイ)、ブリヒラ(ブリ×ヒラマサ)、マチダイ(マダイ×チダイ)などが産業化されている。なお、キンダイは水産研究所本館の屋上にシンボルとして掲げられ、潮の香りと陽光を浴びて燦と輝いている。



先生のご主張は、水産増殖の研究は理論ではなく、実践が伴ない産業化するまで見届けることであった。このお考えの一端を地元白浜漁業協同組合との協力により、昭和45年白浜水産養殖科学センターの発足へと進展させ、生産された優良な種苗を広く養殖業者に分譲する一方、放流も行い沿岸漁業資源の増強策にも役立っている。

このような数々の海産魚類の養殖技術に関する研究実践の功績に対し、昭和57年に日本水産学会賞(技術賞第1号)が授与された。

先生は学会関係では魚類学会のほかに、日本水産学会評議員・近畿支部長、日本水産増殖学会評議員を、また業界関係では日本かん水協会理事・技術顧問、資源調査会専門委員、農業電化協会近畿支部相談役などの要職に就かれてご活躍中であつた。さらに、発展途上国への研究援助として、タイ国チュラロンコン大学に対する網生簀養殖技術の指導など国際交流にも貢献しておられた。また、平成2年度日本水産学会秋季大会が、先生を大会委員長として念願の農学部奈良新学舎で開催され、大成功をおさめたことは記憶に新しいところである。

先生はこの1年半ぐらいの間、傍目にも感じる程何かにとりつかれたように国内外を走り廻られ、多忙を極めておられた。それにも拘わらず、お亡くなりになる直前には平素訪れることの少なかった研究室にも立ち寄って話し込まれたり、すれ違いの多かった身近な人達ともゆっくり話す機会を持たれたりした。今想えば、先生の抱いておられた様々な将来構想を披瀝され、果し得ぬ夢を周囲に托しておられたような気がしてならない。

先生の学園合同葬は7月6日、先生が永年心から親し

み愛してこられた海の見える白浜の地において、先生のご遺徳を偲ぶ各界多数の会葬者に見送られ、盛大かつしめやかに相営まれた。謹んで原田輝雄先生のご冥福をお祈り申し上げる次第である。合掌。

(浅野博利 Hirotochi Asano・熊井英水 Hidemi Kumai)

論文の英文添削について

論文の英文添削をしてくれる Dr. Graham Hardy の連絡先が以下のように変わりました。なお、彼は大学院生時代には爬虫類の研究をしていたので、爬虫類の論文の校閲もするそうです。添削料は A4 タイプライター用紙 1 枚(ダブルスペース)が 1,000 円です。

〒563 大阪府池田市城南 1-4-4

アップル英会話センター

TEL (0727) 53-5082 FAX (0727) 53-7508

(松浦啓一 Keiichi Matsuura)

会 記・Proceedings

1991 年度 第 1 回役員会

1991 年 5 月 17 日(金)、於東京水産大学資料館会議室。
出席者: 落合、本間、新井、松浦、佐野、多紀、加福、宮、丸山、谷内、佐藤、藤田。

議 事: 1. 前回議事録の確認。2. 報告事項。編集: 38 巻 1 号に 13 篇の論文と秋のシンポジウムの会告を掲載する。手持ち原稿 63 篇。会計: 年会の決算報告、広告掲載の依頼が 3 件、超過ページ未納者 6 件の納入等の報告があった。3. 1991 年度年会の反省: 反省点として従来から分類関係の発表が大きな会場で行われる傾向にあったが、生態、行動関係の発表も大きい会場でき

るよう会場の運用の仕方の検討が必要であること、講演要旨が不足しないようにすることなどが挙げられた。今年度は年会中に講演題目が変更されたケースがあったが、今後は変更を認めない、要旨に日本語と英語の表題を併記するなどが申し合わされた。また、来年度からは事前参加申し込み制とすること、要旨代、参加費はそれぞれ 1,500 円とすることとし、当日受付の場合の取扱や具体的な申し込み方法等については 38 巻 3 号に間に合うように検討することになった。なお、1992 年度の年会は東京水産大学で開催することが決まった。4. その他。